
らき すた ~ モンスターズハンターズフロンティアズ編 ~
フルフル

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

らき すた ー モンスターズハンターズフロンティアズ編

【Nコード】

N2767Z

【作者名】

フルフル

【あらすじ】

モンハンフロンティアをプレイするいつものメンバー。

こなた・かがみ・つかさ・みゆき。

いつものメンバーでくんだパーティーで繰り広げるハンター生活。

「こなた！いい加減手伝いなさいよ！」

「もう少して太古の塊出ると思うから・・・待ってて」

「アンタねえ〜！」

そんなゆるくも厳しいハンター生活を追っていく話・・・

〜プロローグ〜（前書き）

ちょっとした好奇心からの投稿となります。

ゆるい感じで進めていくので、急がず焦らず・・・

進めていこうと思います。

くプロローグ

「ちょっと！早く手伝いなさいよ！」

「いやいやいや、これもかがみの成長を願って……」

「だから今まさに修羅場なのよ！」

「こなちゃん、早く来て〜！」

「あ痛っ！ああ、フルフルベビーか……」

「こなたさん、こっちはもう限界です！」

「こなた！早くして！」

「……しょうがない、かがみに免じてお助けしましょうっ！」

「かがみん言うなっ！」

~~~~~

それはある晴れた日のこと……

こなたとかがみは同じ帰り道で会話をしていた。

「ねえねえ、かがみ〜」

「なによ、こなた」



「じゃあアタシじゃなくてもいいじゃないの、みゆきとか」

「みゆきさんも誘う予定だけど・・・かがみは、ホラ・・・」

「な、何よ・・・」

「モンスターをハントするのに向いてそうだから」

「今日こそケリをつける必要があるかしらねえ・・・！」

「冗談だよ・・・つかさも誘おうかなって考えてる」

「そんなに集めて何する気よ？」

「モンハンズのパーティは4人までなの！丁度4人でパーティ結成  
！」

「なるほどねえ・・・」

「一緒にやるうよ〜かがみ様〜」

「ああもう、やればいいんでしょ！やれば！」

「フフフ・・・本当はやりたいツンデレかがみ萌え・・・」

「やめるぞ」

「ウソだよ〜かがみ様〜」

「ったく・・・いいように乗せられてる気がするけど・・・」

それがこなた達のハンター生活の始まり・・・

## 〜プロローグ〜（後書き）

とりあえずパーティ集めで最初は流そうと思います。

それからクエストって感じで。

登場モンスターは3RDまでです。

よろしく願いします〜。

「つかさを誘おう！」（前書き）

第1話目となります。

クエストはもう少し先になりますが・・・

ごゆるりとお楽しみください・・・

「つかさを誘おう!」

こなたがかがみをモンハンズに誘った次の日。

場所は陵桜高校・・・

3年生の教室内・・・

「つかさささ!」

こなたは座っているつかさの肩を後ろから静かに叩いた

「ひゃっ!・・・何だあこなちゃんかビックリした」

「つかさ!一緒にネットゲやる!」

「ねとげ?」

「ホラ、前にもRPGとかやったじゃん、あれに似たような奴」

「ああ、いいよべつに」

「おお!流石つかさ、じゃあ帰りにまた話すね!」

「あ、うん」

「じゃあ、靖国で会おう!」

「え?うん、やくくにで」

つかさは一応返事はしたが・・・靖国の意味は知らない・・・

「つかさを誘おう！」（後書き）

最初は短めですが・・・だんだんと伸ばそうと思います。

次にご期待ください！

「みゆきさんも誘おう!」(前書き)

どうぞ。

毎度短めになってしまいましたが・・・

よろしく願います。

始めます。

「みゆきさんも誘おう!」

場所は変わらず陵桜高校・・・

3年生教室にて・・・

「みゆきさん」

「あっ、こなたさん、おはようございます」

「うん、おはよう」

「何か御用でしょうか？」

「そうそう、みゆきさん一緒にネットゲやらない？」

「ネットゲ・・・ネットゲームでしょうか？」

「うん」

「どんなゲームなんですか？」

「えとね・・・みんなで動物と触れ合うゲームだよ」

微妙にウソを交えたこなただった。

「そうですか、では私でよければ一緒にやらせていただきます」

「流石みゆきさん！じゃあまた放課後ね！」

「はい、また放課後に」

みゆきさんの勧誘を終えたこなたであった・・・

「みゆきさんも誘おう!」(後書き)

次からは長めに構成しようと思います。

次話にどうぞ期待。

「こなたパーティー結成！」（前書き）

3話目となります。

今回から長めで行いじつと思います。

「こなたパーティー結成！」

時間は流れ放課後……

場所は都内某所のネットカフェにて……

いつもの4人組はモンハンズをプレイしようとしていた……

「よし！アカウント作成終了！」

こなたたちはすでにインターネットでゲームアカウントを作成していた。

「じゃあログインするね！」

画面にゲームオープニングが流れ、スタート画面になる。

「じゃあ今の感じで、みんなもやってみて！」

こなたはかがみら3人に同じ動作をさせ、なんとか全員がログインを果たした。

「ねえ、こなた」

「ん？なに、かがみ？」

「アンタいつもは先にゲームやってて装備とか上位のになってたけど……」

「ああ、今回はそういうのは無し。みんなに合わせて最初からのプレイだよ」

「ふうん・・・」

「まあとりあえず、集まってパーティ組もうよ」

「あなたたちはギルドに集まりパーティを組んだ。」

「よし、とりあえずこれでオーケーっと」

「で、これからどうするのよ」

「まずは装備を整えよう」

「今全員の装備は「モフモフシリーズ」

「防御力は最低で、寒さに強いタイプ。」

「最初は雪山のクエストばかりだから防具はこれでいいや・・・」

「なんか後で後悔しそうだ・・・」

「というわけで武器を振り分けよう!」

「最初は全員が片手剣という武器。」

「同じ装備ではメリットは全然ない。」

「私は見た目で大剣にするね」

こなたは大剣。

「じゃあ、アタシは双剣にするわ」

かがみは双剣

「じゃああたしは、ライトボウガンって奴にするね」

つかさはライトボウガン。

「では私は弓にします」

みゆきさんは弓。

「うーん……予想通りの武器配置……」

「でもバランスよさそうじゃないの」

「それもそだね」

ちなみにこなたはみゆきさんにモンハンズの事を説明したが。

みゆきさんは「それも面白そうですね」と簡単に許してしまった。

「よしっ！じゃあ初クエストいってみよー！」

「」「」「おー！」「」

「ちなみにアンタどんなクエスト行くつもりなのよ？」

「レオレウスの討伐」

「待たんかいつ！」

「どしたの、かがみ？」

「いきなりそんな大型モンスター相手にして勝てるわけないでしょうが！」

「じゃあ、レオレイアの討伐で」

「オス・メスの問題じゃない！」

「もう……しょうがないなあ、じゃあドラランパスの討伐」

「……まあそれくらいが妥当でしょうね」

「そうと決まれば早速出発しよー！」

「「「おー！」」」

こなたはクエスト契約を終え、出発直前……

「あつ、そうだ、砥石忘れた」

「初クエストで危ないわね……」

「気を取り直してしゅっぱーっ！」

4人は初のクエストに出ていった・・・

「あつ、ペイントボール忘れた」

「知るかつ！」

クエストは長い・・・

「こなたパーティー結成！」（後書き）

やっとクエストまでこぎつけました。

つかさとみゆきさんのセリフが少ないのですが・・・

だんだんと増やそうと思います。

次はドスランパスの討伐！。

「ドスランパスの討伐！」（前書き）

3話目です。

ゆるゆるのクエスト模様を追っていくこの小説・・・

終わりがこないように頑張ります（＾　＾　）

「ドスランパスの討伐！」

場所はモンハンズ内・・・

クエスト場所・雪山・・・

出現モンスターランパス・ドスランパス

クエスト目標・討伐・捕獲

~~~~~

ここはスタート場所のテント。

「ん〜、初クエストだからそんなに緊張しなくてもねえ〜」

「アンタは緊張感なさすぎだっ！」

「あなたは初クエストなのに「砥石」「回復薬」「ジューシー肉」以外のアイテム全てを忘れた。

「いや〜まさかポーチじゃなくてボックスにアイテムがあるとはねえ〜」

「初めてなのにこれ以上なく不安だ・・・」

「まあまあ気を取り直して行ってみよー」

「あゝこなちゃん？」

話しかけたのはつかさだった。

「ん？何？つかさ」

「あのね、このライトボウガン・・・弾が出ないの・・・」

「え？」

こなたは（。。。。）のような顔をした。

「あゝ・・・ボウガン用の弾がない・・・」

ボウガンには専用の弾が必要で、武器だけでは「殴る」しかできない。

「こなちゃん・・・どうしよう・・・」

（。。。。）のような顔のつかさであった。

「大丈夫！現地調達だよ！そのへんの木の実とかで作れるから！」

こなたの言つとおり、木の実によっては弾の代わりになるものもある。

「わあ、良かった。ありがとう、こなちゃん」

「まだ何もしてないのにここまでグダグダか・・・」
少し呆れるかがみだった。

~~~~~

場所は移り雪山・・・

「あっ、コレコレ！」

こなたたちはつかさのボウガンの弾を調達していた。

「はい、つかさ」

「ありがとう、みんな」

なんとか弾を手に入れたつかさ。

「よし！じゃあ気を取り直して行ってみよう！」

「で、どこにいるのよドスランパス？つてやつは」

「千里眼の薬忘れたから、わかんない」

「それでは、私が飲んでみますね」

みゆきさんが千里眼の薬を飲む。

「ゲームの中の薬は、全部液体なんですね」

「いや、そこは注目するところじゃないと思う」  
「すかさず突っ込むかがみ。」

「えーと……この隣のフロアに居るみたいですね」

「じゃあみんな準備して！」

こなたがそう言うと、それぞれが準備を開始した。

かがみは鬼人薬という攻撃力の上がる薬を飲み。

つかさはボウガンに弾を込めた。

みゆきさんは矢に「強？ビン」という攻撃の上がるビンを取り付けた。

そしてこなたはピッケルを構えて、採掘準備を始める。

「ちょっと、こなた！」

「なに？」

「ちゃんと闘う準備をしなさいよ！」

「大丈夫だよ。ドスランパス位なら3人でいけ……る？」

「こっちに聞くなっ！ってか初めてなんだから協力しなさいよ！」

「・・・かがみ」

「何よ!」

「・・・後ろ」

「そんな手には乗らないわよ、今日という今日は徹底的に・・・」

「いや、だから、後ろ!」

「ああ、もう!後ろがなんなのよ!」

かがみは後ろに振り向いた。

そこにはドスランパスがいて、かがみと目があつた。

「クワア~~~~!」

「ドスランパスの雄叫び」

「ちょ、ちょっとコレどうやって防御するのよ!?」

「え?双剣は防御できない武器だよ?」

「先に言いなさいよ!」

逃げ惑うかがみ。

「いや、両手に剣もってるんだし、ふつー気づくと思っぢゃ・・・」

「いいから助けなさいよっ！」

なぜかドスランパスはかがみを集中狙いする。

「お姉ちゃん！」

つかさは狙いを定めてドスランパスを撃った。

「痛っ！」

しかしかがみに当たってしまった。

「ご……ごめんね……お姉ちゃん」

「私が注意を引きつけます！」

みゆきさんが弓でドスランパスを狙う。

狙いは正確でしっかりドスランパスにあたった。

「クキヤー！」

「ドスランパスの悲鳴」

「今のうちにフロアを移動して、一度体制を立て直しましょう」

みゆきさんの提案で、一同はフロア移動して事なきを得た。

「ふう、ありがとう、みゆき。助かったわ」

「いえ、ご無事でよかったです」

「つかさ、今度はちゃんと狙ってね」

「うん、頑張る！」

「で・・・肝心のこなたはどこかしらね」

フロア移動した所にこなたはいなかった。

「あつ、お姉ちゃん、あれ、こなちゃんかな？」

「え？どれよ」

「ほらあそこ」

つかさはフロアの天井を指さした。

そこには確かにこなたが居た。

「いや、ここは良い鉱石がたくさんとれるな」

一人で採掘していた。

「ん、これだけあれば新しい装備が・・・」

「つかさ、ちょっとボウガン貸して」

狙いをこなたに定めるかがみ。

そして撃った。

「にやっ!？」

鉱石をいれた袋が飛んでいった。

「もぐ、かがみ!なにす……」

「いい加減にしないとランパスより先にアンタを討伐することになるわよ……」

「ごめんなさい、かがみ様」

こなたはモーシヨンの「土下座」で謝った。

そして4人が揃って作戦会議を始めた。

「みゆきさんは後衛向きだからフロアの隅っこで補助」

「分かりました」

「かがみは一緒に前衛で頑張ろう」

「分かったわ」

「つかさは……」

「なに、こなちゃん?」

「……………」

「え？」

「よし、じゃあ行ってみよー！」

「こなちゃん、わたしは!？」

「冗談だよ、つかさはみゆきさんと一緒に後衛で補助して」

「うん、分かった」

かがみが一番前に出て……

「じゃあ行くわよ!」

「「「おー!」「」」

フロアを移動しようとした瞬間。

ギョロ。

かがみはドスランパスと目が合った。

「あ……モタモタしてたから向こうから来ちゃったのか……」

フムフム、と言いながらあなたは解説した。

「いいから助けなさいよっ!」

またしてもかがみだけが狙われる。

そんなこんなで次回に続く。

「ドスランパスの討伐！」（後書き）

長めの話がまとまって良かったです。

次は決着させようと思います。

どうぞ期待。

**番外編 「設定説明会！」（前書き）**

前回でボウガンの弾がないというネタについて。

支給品ボックスにありませんか？

というご指摘を受けたので。

世界観について、少々説明を行いたいと思います。

それでは・・・

## 番外編 「設定説明会！」

えと・・・・・・・・

まず武器についてです。

「モンスターズハンターズフロンティアズ」〔以下モンハンズ〕  
において使用される武器は・・・・・・・・

- ・ 大剣
- ・ 双剣
- ・ 太刀
- ・ 片手剣
- ・ 弓
- ・ ライトボウガン
- ・ ヘビィボウガン
- ・ ランス
- ・ ガンランス
- ・ ハンマー
- ・ ウィップ〔鞭〕

となります。

防具に関しては・・・

- ・ 頭
- ・ 身体

・足

の3つのパーツの防具となります。

モンハンズは現実の某ゲームとネーミングは似ていますが。

全くの別物となります。

ゲームキャラは3頭身となりますので、デフォキャラです。

次にクエストについて・・・

クエストに関しては某ゲームと同じコンセプトです。

1グループ4人までで、受注したクエスト内容をこなす。

という感じですよ。

ただし、モンハンズにはもう一つルールが追加されています。

それは「クエストの途中参加」です。

例えば3人でクエストに行ったとします。

そういう場合「空いている人数分は途中参加可能」となります。

2人クエストなら2人は途中参加可能。

1人クエストなら3人まで途中参加可能となります。

ですが「モンスターが死にかけで加わる」と途中参加者が有利になるので。

途中参加プレイヤーは「報酬は無し」という形になります。

次にモンスターです。

これは現実の某ゲームのモンスターの名前を多少変化させています。ですが某ゲームとは関わりはありません。

あとは・・・クエストマップの説明です。

スタートはテントから始まります。

テントには納品ボックスのみで、支給品ボックスはありません。

なのでアイテム忘れは致命的になります。

場面ごとは「フロア」と呼びます。

移動は走る・歩くのみです。

あとは・・・のちのち新要素が加わる事があればまた書きま

す。

という訳でよろしくお願いいたします。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2767z/>

---

らき すた ~ モンスターズハンターズフロンティアズ編 ~

2011年12月11日20時51分発行